

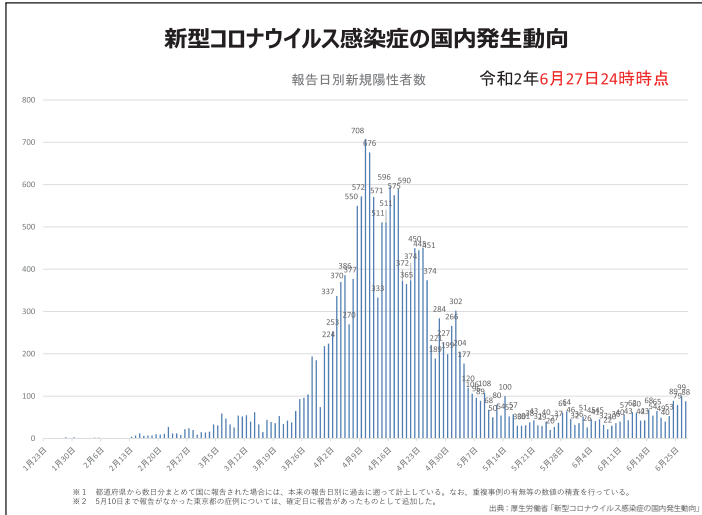
うわじま うしおに



JUL. 2020
No.41

「新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) への対応」

感染管理部



病院理念 Philosophy
 患者さま中心の医療を基本として
 一、信頼される病院
 一、思いやりのある病院
 一、やすらぎのある病院
 一、進化しつづける病院
 一、地域になくってはならない病院をつくります。



2019年12月、中華人民共和国湖北省武漢市において原因不明の肺炎の発生が複数報告されました。現在、新型コロナウイルス感染症 (以下 COVID-19) として、世界各国で調査、対応がすすまっていますが、世界各地に拡散した COVID-19は欧米で深刻な状況となり、現在は南半球でも感染者数は増加しています。2020年6月7日現在で、全世界での感染者数は約690万人、死者は約40万人になっています。

本感染症については、予防や治療法についても未解決な部分が多いのが現状です。主な症状としては、発熱、咳、筋肉痛、倦怠感、呼吸困難などが比較的多くみられ、頭痛、喀痰、血痰、下痢、味覚障害、嗅覚障害などを伴う例も報告されています。重症例は主に高齢者で認められ、重症化しやすい要因として、循環器系疾患、喘息や喫煙に関連する閉塞性肺疾患などの呼吸器疾患、糖尿病、がん、各種免疫不全、および人工透析などが考えられます。重症化する例では、肺炎後の進行が早く急激に状態が悪化するため、注意深い観察と迅速な対応が必要となります。感染経路としては、飛沫および接触でヒート感染を起こすと考えられており、いわゆる三密 (①密閉、②密集、③密接) を避けることがとても重要です。感染力は、1人の感染者から2~3人程度に感染させると言われています。注意すべき点は、症状のない感染者であっても他者に感染させてしまう可能性があるため、他者と接する際には不織布マスクの着用を実践することが大切です。

当院は第二種感染症指定医療機関であることから、海外で COVID-19が広がりを見せ始めた段階から、マニュアルの作成および、職員が実施する感染対策の啓発活動に力を入れ、COVID-19罹患患者の受け入れ態勢を整えてきました。2月初旬に発生した、ダイヤモンドプリンセス号での集団感染事例を皮切りに、全国各地でのクラスター発生や、感染経路不明な感染者の増加が問題となってきたことを受け、当院でも、医療崩壊やオーバーシュート (爆発的患者急増)に備え、COVID-19に対応するための入院制限や、病棟の再編成を行うなどの対応を行いました。院内で実施した感染対策として、面会禁止、来院者全員を対象とした検温導入、およ

び院内・外で開催される各種イベントの自粛などにおきましては、一般市民の皆様には大変ご迷惑をおかけしましたが、ご協力頂き本当にありがとうございました。また、マスク、ガウン、およびアルコール消毒などの感染防護具の供給困難に陥ったことに対しましても、県内・外から多大な支援をいただいたことや、ガウンやフェイスシールドを手作りしていただいた関係者の方々には本当に感謝しております。当院では、3月1日に、県内初となる感染者を受け入れて以降、これまでに7名の患者対応を行いました。入院された方々につきましては全員無事に退院され、社会復帰されております。

愛媛県内では、病院施設内でのクラスター発生など、まだまだ課題が残っておりますが、6月より、「感染縮小期」に規制緩和されております。今後予測されている、COVID-19の第2波を防ぐことができるよう、職員を含め、市民の皆様1人1人が気を引き締めなおすことが求められる時期となります。「社会活動の規制は緩めるけれども、感染対策は緩めない」という意識のもと、COVID-19と向き合いながら、感染予防と社会経済活動のバランスを図っていくことが、これからの私たちが対応すべき最重要課題であると考えます。



1 新型コロナウイルス感染症対応時の個人防護具。2 中国で新型コロナウイルス感染症が拡大した時期に、友好都市の象山県へ送った支援物資のお返しとして医療用の防護服と手袋が届けられました。3 手作りガウン・手作りフェイスシールドを寄附して頂きました。4 市民の皆様にも来院時にご協力いただきました。5 新型コロナウイルス感染症の収束を祈り、6月19日に宇和島版花火プロジェクトとして花火が打ち上げられました。



シリーズ 看護部だより

1年間を振り返って

7東病棟 看護師 河野 真衣

私は以前、施設で調理師として働いていました。5年前に父が心筋梗塞で入院することになり、不安だった父や私たち家族に対して、気遣い、優しく接してくださる看護師さんの姿を見て、私は看護師を目指しました。そして、看護師を目指すきっかけとなった父や私たち家族がお世話になった病棟で働くという夢は現実となり、1年前から循環器病棟で働いています。

入職当初は、一人できちんと患者さまを看ることが出来るのか不安ばかりでした。しかし、自己学習や先輩からの指導によって少しずつ知識や技術も向上しています。患者さまからの質問にも自信をもって対応できることが多くなり、「ありがとう」の一言がやりにがいに繋がっています。また、元気になり笑顔で退院される患者さまを見られることが嬉しく、もっと頑張りたい看護ができるようになりたいと日々感じています。

急変の対応など、自信のないことも沢山ありますが、先輩から様々なことを吸収し自己研鑽に努め、出来ることを増やし成長していきたいと思っています。



研修医の紹介



■鈴木 遥香 研修医(2年次)

医師として最初の第一歩を踏み出す研修病院として、とても恵まれた環境の中でストレスなく研修に励むことができています。将来どの科に進むとしても、当院での研修は糧になると確信しています。

■清家 廉 研修医(2年次)

どの科の先生も優しく指導熱心で、疑問があれば快く教えてくださり、充実した毎日を送ることができています。また、研修医生活を充実させる環境が整っており、当院で研修できて良かったと感じています。

■大久保 芽衣 研修医(1年次)

まだまだ分からないこともありませんが、周囲の方々に支えられ、忙しくも充実した日々を送っています。症例発表や心電図カンファ等の勉強会が多いことなども魅力的で、研修する場として最適だと感じています。

■大野 拓也 研修医(1年次)

上級医の先生方のご指導の下で、数多くの救急患者への対応を経験でき、適切な診察、検査、処置などを自分で考えながら、救急患者や急変した患者への初期対応能力をしっかりと身に着けたいと思います。

■大原 健太郎 研修医(1年次)

救急現場では、指導医の先生方のアドバイスをいただき、問診、検査、治療までを自分で考えながらやらせていただけたので、日々力がついていて実感しています。幅広い知識や手技などを身につけたいと思います。

■岡澤 麻耶 研修医(1年次)

日々自分の至らないところを実感しながら、充実した研修生活を送っています。これから目の前の患者さんに寄り添いながら、自分に何が出来るかを模索しつつ、しっかり地域に貢献できるよう研修に励んでいきます。

■下野 雄大 研修医(1年次)

救急対応では上級医の先生方から丁寧にご指導をいただき、自分で考えながら研修することができています。症例検討会等の振り返りの場も充実しており、研修しやすい環境で、よい経験をさせていただいています。

■竹本 隼 研修医(1年次)

当院は、みなさんが初期研修医に優しく寛容で、基本的に何でも研修させていただくことができています。また、より多く経験を積むようバックアップして下さるので、私もしっかり応えようという気持ちになれます。

■藤本 裕 研修医(1年次)

当院は、研修医が様々な症例について、自分で考えて治療計画などを立案できるので、診療力が身に付くと思います。他診療科の先生方にも気軽に相談できる雰囲気があり、研修する上でとても心強く感じています。

■本田 遼佑 研修医(1年次)

当市は温厚な方が多いので過ごしやすく、研修では1～3次救急の初期対応が経験でき、先生方の指導も手厚く、多くの手技等を実践させていただいており、自身のやる気に見合った研鑽が積めるすばらしい環境です。

■八木 貴寛 研修医(1年次)

まだ分からないことも多いですが、2年次の先生や指導医の先生方、看護師の方々など、多くの方にご指導いただいております。日々成長を実感できています。また、研修環境も分からないことを相談し合える良い環境です。

■柳原 千秋 研修医(1年次)

働く上で各診療科の先生方、スタッフの方が温かいことにとっても感謝しています。また、研修医室に戻りみんなで助け合える環境なので、素晴らしい同期の医師たちと共に、切磋琢磨して素晴らしい研修生活にします。

「今後ともよろしくお願いたします！」



前列左から大原先生、清家先生、鈴木先生、大久保先生、八木先生
中列左から柳原先生、大野先生、本田先生、藤本先生、竹本先生
後列の下 下野先生、後列の上 岡澤先生

シリーズ 各科紹介 | 医療安全管理部

医療安全管理部 主任安全管理者 丸瀨 小百合

医療安全管理部は、当院において発生したヒヤリ・ハット事例、医療事故の原因、分析及び防止対策を各々の事例ないし事故発生部門に即して提言及び指導することを目的として設置されました。

現在、善家副院長兼医療安全管理部長のもと、副看護部長・看護師長・薬剤師・主任安全管理者(専従・看護師)・事務員の6名で活動をおこなっています。

主な活動としては、インシデント/アクシデントレポートの集計と分析、医療安全に関する現場の実態調査、再発予防策の検討、各部署の医療安全管理者への協力、毎週火曜日の医療安全管理部会の開催、院内ラウンド、医療安全情報の発信、医療安全研修の企画運営、医療事故マニュアルの策定・改訂等です。

インシデントレポートの集計を始めた2004年当時は1,500件前後でしたが、2007年からは2,000件以上の報告を頂いています。報告数の目安としては、病床数の約5倍ということで、「報告する文化」は職員に浸透してきていると感じています。

2018年3月より、紙面報告から電子カルテ上で入力できる「e-CLIP」を導入し、いつでもどこでも、どの部門からも報告ができるようになり、集計やグラフ化等が簡単に行えるようになりました。

当院は、四国西南地域の救急を担う急性期病院として多くの患者さまに高度な医療を提供しています。医療を取り巻く環境は、平均在院日数の短縮や手術件数の増加、患者さまの高齢化、高度な技術の導入等によりますます多忙となり質の高い医療や看護が求められています。医療の高度化、専門化に伴い様々なリスクは減ることはなく「終わらなき戦い」と言われる日々の取り組みを継続していく必要があります。

今後提出して頂いたインシデント報告を基に、業務の整理・標準化・職員教育など、安全な医療の提供に結びつけていけるよう活動をしていきたいと思っております。



前列左から善家副院長、久米副看護部長、丸瀨看護師長
後列左から黒田看護師長、森薬剤師、山本事務員

宇和島市病院局で働きたい方の「奨学金」貸与・返還支援制度

将来、宇和島市病院局の看護師、助産師、薬剤師として勤務を希望する方をサポートする制度です。



1 看護学生等奨学資金貸与制度

- 対象者／看護大学・看護短期大学・看護師養成施設に進学決定、または在学中（5年一貫看護師養成課程の高等学校については、専攻科の期間のみ）の方で、免許取得後、当病院局の看護師または助産師として勤務を希望する方。
- 貸与額／①自宅から通学 月額80,000円 ②自宅以外から通学 月額100,000円
- 返還免除／国家試験に合格した後、直ちに当病院局において、規程で定められた期間を勤務することにより返還が免除されます。
- 選考方法等／詳しくはHP又は下記までお問い合わせください。



QRコードを読み込むとHPが見られます。

2 薬剤師奨学金返還支援制度

- 対象者／新卒薬剤師で日本学生支援機構のほか、奨学金（当病院局が認めたもの）の貸与を受けている方で、当病院局採用日以降、奨学金の返済義務がある方。
* 特定の病院、企業等への就職を条件とした奨学金制度は対象となりません。
* 当病院局において一定の審査を行います。
- 助成額／・毎月の奨学金返済額と同額（千円未満切捨）を、毎月支給（上限5万円）します。
・支給期間は最長10年間で、支給総額の上限は360万円です。
・複数の奨学金の貸与を受けている場合は、合算して助成金を交付します。
・返還中に当院を退職した場合、その時点で助成金の支給は終了しますが、それまでに支給された助成金の返還義務はありません。
- 選考方法等／詳しくはHP又は下記までお問い合わせください。



QRコードを読み込むとHPが見られます。

お問い合わせ先
宇和島市病院局 経営企画課 TEL: 0895-25-1111 E-mail: uwajima-hp@city.uwajima.lg.jp

新型コロナウイルス感染症に対する外来対応

医事課 医事係長 井上 悌爾

当院では3月9日の外来患者さまに対する電話再診による処方箋の発行を皮切りに、人間ドックの中止、全入館者に対する検温の実施と出入口の制限、ゾーニングのための発熱者待機所、外来受付へのアクリル板の設置等を実施しました。短期間で姿を変えた当院の外来に戸惑った方もいらっしゃったのではないかと思います。

感染対策についてはやりすぎということはないという考えから、最善を尽くしてまいりましたが、現在まで院内感染が発生していないことが一番の成果だと考えております。今後も第2波、第3波への懸念も払しょくできないことから、目まぐるしく変化する状況に的確に対応していこうと考えております。

今後とも市民の皆さまが安心して医療を受けることのできる環境づくりに努めてまいりますので、ご理解、ご協力をよろしくお願いいたします。



2020年7・8・9月糖尿病教室予定表

| 日程 | 医療スタッフの講義 | 担当部署 | 演題 | 講師 |
|----------|----------------|-------|--------------|----------|
| 7月17日(金) | 糖尿病食は健康食 | 食 養 科 | 糖尿病と肝臓 | 内科多田藤政先生 |
| 8月7日(金) | 糖尿病に薬(ヤク) だつ話 | 薬 局 | 自分の糖尿病を把握しよう | 研修医の先生 |
| 8月21日(金) | 合併症が出てしまった時の食事 | 食 養 科 | 糖尿病と最近の話題 | 内科藤堂裕彦先生 |
| 9月4日(金) | 共に学ぼう、糖尿病 | 看 護 部 | 糖尿病の合併症 | 内科首藤祥子先生 |
| 9月18日(金) | お散歩から始めましょう | リハビリ | 糖尿病は"足"にも注意 | 研修医の先生 |

- 時間：午後2時より3時まで
- 場所：北棟(2階) 講堂
- ご不明な点は食養科までお問い合わせください。
お問合せ先：市立宇和島病院
食養科 TEL: 0895-25-1111(内線20010)

- * 講義内容は変更になることもあります。
- * 血糖値測定(無料)は毎回行います。
(午後1時30分頃から2時まで)
- * 糖尿病療養指導士のスタッフが担当いたします。
- * 7・8・9月のパール会は中止します。

たっぷり夏野菜で栄養補給 /

和風ラタトゥイユ



材料(1人分)

- ・鶏胸肉……………100g
- A [・小麦粉……………大さじ1/2
- ・塩・コショウ……………少々
- ・ナス……………1本(70g)
- ・ズッキーニ……………1/4本(40g)
- ・玉ねぎ……………1/4個(50g)
- ・トマト……………大1/2個(100g)
- ・赤パプリカ……………1/4個(37.5g)
- ・オリーブ油……………大さじ1
- B [・塩……………小さじ1/6
- ・コショウ……………少々
- ・濃口醤油……………大さじ1/4
- ・青じそ……………2.5枚

たくさん汗をかき基礎代謝が上がる夏に不足しがちなたんぱく質・水分・ビタミンを、食事ですっかり補いたいものです。たんぱく質が多く含まれる鶏胸肉、ビタミンの豊富な旬の野菜であるパプリカやズッキーニ、水分量の多いナスやトマトですっかり補給しましょう。

- 隠し味のしょうゆと青じそで、和の食卓ともなじむ味わいです。
- 【1人分の栄養量】
エネルギー：348kcal たんぱく：24.9g 塩分：2.0g
- ①ナスとズッキーニは1cm厚さの輪切りにする。玉ねぎ、トマト、赤パプリカは2cm角に切る。
- ②鶏胸肉は一口大のそぎ切りにし、Aをまぶす。
- ③鍋にオリーブ油を中火で熱し、玉ねぎを1～2分いためる。透き通ってきたら②を加えてさらに2分ほどいためる。
- ④ナスとズッキーニ、赤パプリカ、Bを加え、全体的にしんなりとなるまでさらに4～5分いためる。トマトを加え、ときどき混ぜながら3～4分煮る。
- ⑤強めの中火にして濃口醤油を加え、青じそを大きくちぎり入れる。全体につやが出るまで2分ほど上下を返しながらいためる。
- ⑥器に盛り付けて完成。

市立宇和島病院の基本方針

1. いつでも、どんな病気にも、高度医療を提供する病院をめざします。
2. 患者さまの権利を尊重し、愛情と対話をもってあたたかい医療を提供する病院をめざします。
3. 快適な医療環境をととのえ、明るくうおいのある病院をめざします。
4. 高い技術を持ち、人間性豊かな医療人の育成につとめる病院をめざします。
5. 医療・保健・福祉との連携を深め、地域で完結する医療に貢献する病院をめざします。

患者さまの権利

1. 良質で適切な医療を平等に受けることができます。
2. 自分の状態や医療行為について十分理解できるまで説明を受けることができます。
3. 医療者から十分理解できるまで説明を受けた上で、自由意志に基づき医療行為を選択あるいは断ることができます。
4. 主治医より受けた診断、治療方針について他の専門家に意見を求めたい場合は、セカンドオピニオンを利用することができます。
5. 自分の医療に関する記録などの情報について、開示を求めることができます。
6. 個人情報及びプライバシーは保護され、いかなる状況においても人間としての尊厳が守られます。
7. 患者さまの診療・治療について当院の教育・研究にご協力をお願いする場合がありますが、これを断ることができます。
8. 病院に対し種々の提言をすることができます。